

# 風車

紀州の歴史と文化の風

2009秋号

48

財団法人 和歌山県文化財センター

特集

京奈和自動車道関連遺跡発掘調査

「重行遺跡の調査」

連載

文化財建造物課短信

きのくに歴史小話

「建築彫刻の話」

「発掘屋余話」

考古学の散歩道

「紀ノ川流域の古代寺院」



京奈和自動車道関連遺跡発掘調査

重行遺跡の調査

調査地は紀の川市重行の広域農道橋本・岩出線と県道泉佐野・打田線交差点南西に位置します。調査地の地名は中世の「重行」なる有力者の人名に由来すると言われています。また、調査地の北西約二〇〇mの和泉山脈山麓に城山城跡や、同方向約二・五kmに春日山城跡などの中世の山城が点在します。調査は平成二〇年十月中旬から平成二一年三月中旬までと、平成二一年五月下旬から九月初旬まで行いました。調査面積は約一五〇〇〇m<sup>2</sup>となります。二ヶ年度の調査を通して見つかった遺構は、弥生時代中期(二一〇〇年前)、室町時代中頃(約五〇〇年前)、江戸時代中頃(約三〇〇年前)のものに分けられます。

今回の発掘調査で重行遺跡について以下の事がわかりました。

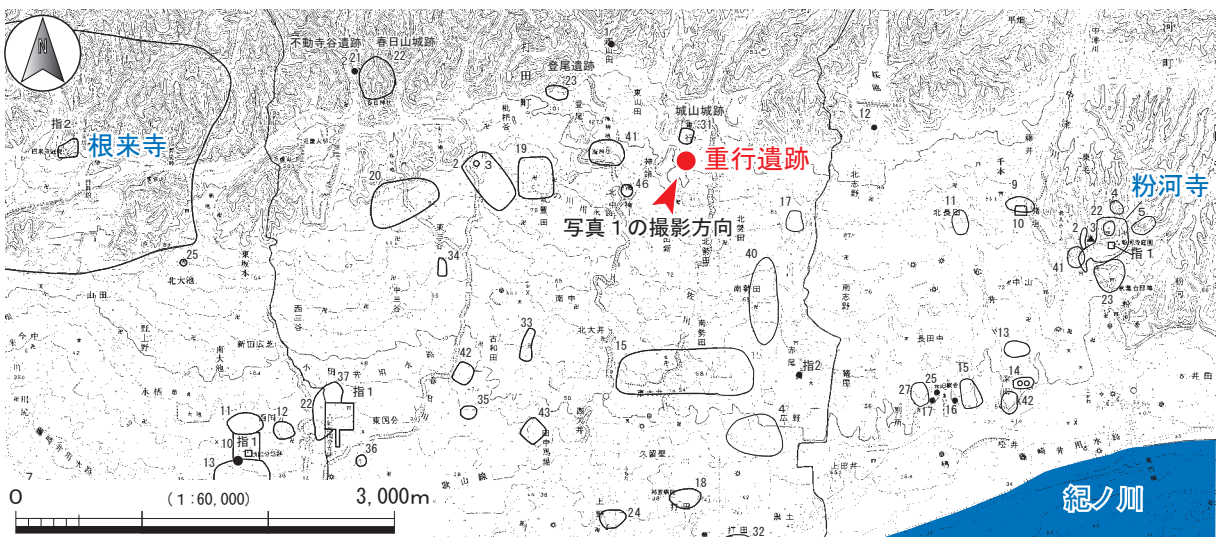
まず、縄文時代には、石鏃などが数点出土しており、狭小な段丘上での

人々の活動がうかがわれます。また、調査地の西側の登尾遺跡、不動寺谷遺跡でも多くの石器が採集されています。弥生時代には、昨年度の調査で中期の竪穴建物や土器が見つかりました。後世の土地の削平のため見つかった竪穴建物は一棟でしたが、この地に人が住み着いていたことが判明しました。

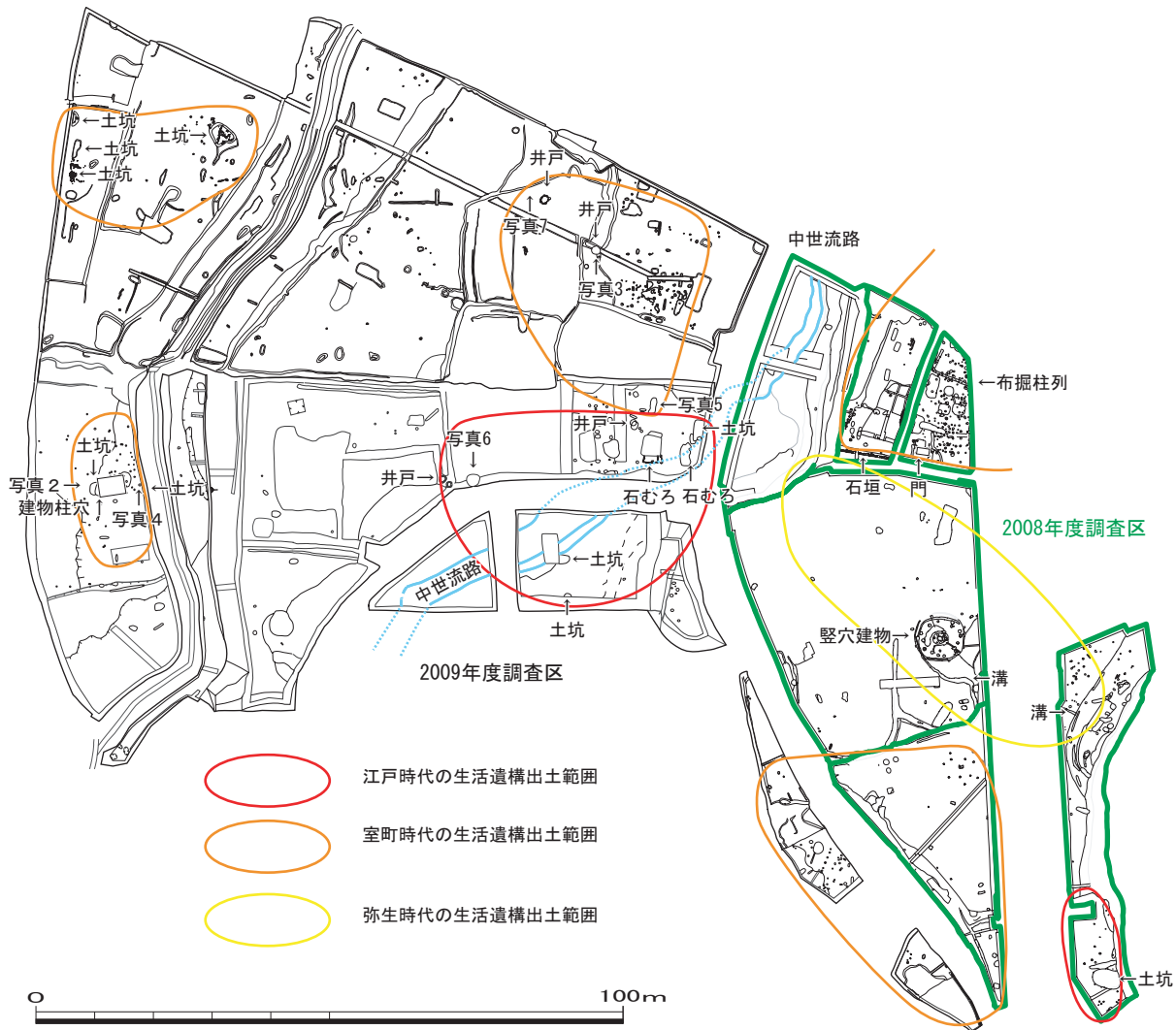
次に、古墳時代から鎌倉時代の遺構は、今回の調査において見つかりませ



写真1 調査地遠景



遺跡地図と重行遺跡位置図 (和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図から転載)



調査区平面図 (S = 1/1250)

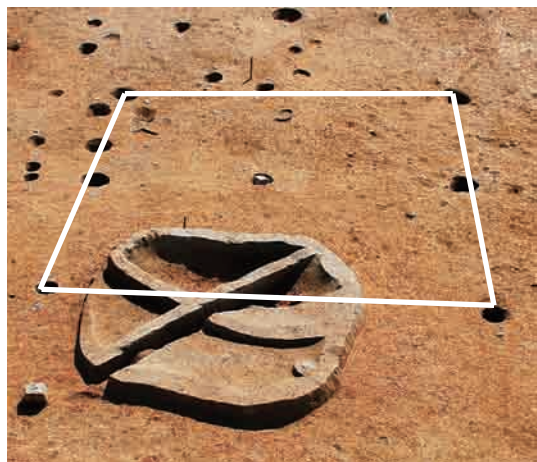


写真2 掘立柱建物 (室町時代：西から)

は、当時の一般集落で、白磁瓶子などが出土しており、これらの遺物は、瀬戸焼の灰釉碗や灰釉瓶子、中国製青磁碗なども出土しました。他にも軒丸瓦や軒平瓦、鬼瓦といった瓦類、瀬戸焼の灰釉碗や灰釉瓶子、中国製白磁瓶子などが出土しており、これらの遺物は、当時の一般集落で

んでした。しかし、遺物は微量ですが出土しています。このことから、おそらくこの時期の遺構は削平されたものと考えられます。

室町時代の遺構・遺物、は十五世紀のものを中心です。主な遺構としては、掘立柱建物があります。この建物からは、建物を建てる前の地鎮祭を行ったと考えられる土器を埋納した穴などが見つかりました。

また、石積み井戸も見つかり、井戸の底には曲物が置かれていました。曲物の中からは、土釜や土鍋、土師器皿などが出土しました。

付近を流れる流路からも、漆塗り椀や中国製青磁碗なども出土しました。他にも軒丸瓦や軒平瓦、鬼瓦といった瓦類、瀬戸焼の灰釉碗や灰釉瓶子、中国製白磁瓶子などが出土しており、これらの遺物は、当時の一般集落で





写真4 土器を埋納した穴（室町時代：南から）



写真3 石積み井戸と曲げ物（室町時代：南から）



写真7 漆塗り椀（室町時代）



写真6 鬼瓦（室町時代）



写真5 軒丸瓦（室町時代）

は使用できなかつた高価なものと考えられます。

この遺物に関連して、昨年度の調査では交差点付近で、石垣に区画された屋敷地を発見しました。本年度の調査でも、流路（川）を挟んで、西側で一連の屋敷地と考えられる室町時代の遺構を検出しています。また、屋敷跡の一部と考えられる土地の低い箇所では、深さが約2mほどの石積み井戸を検出しました。

江戸時代は十八世紀のものが中心で、土坑や石で作られた室（むろ）などがあります。陶磁器類は伊万里焼、唐津焼、備前焼が出土しました。

室町時代、すなわち中世の重行遺跡には、屋敷あるいは館的な敷地と出土遺物から推し量るに、この地を取巻く勢力の一つの拠点があったと考えられます。また、和泉に通ずる交通の要衝に立地することからも、中世根来寺などに関連していた勢力の可能性も十分に考えられます。

（佐伯和也）



## 文化財建造物課 短信

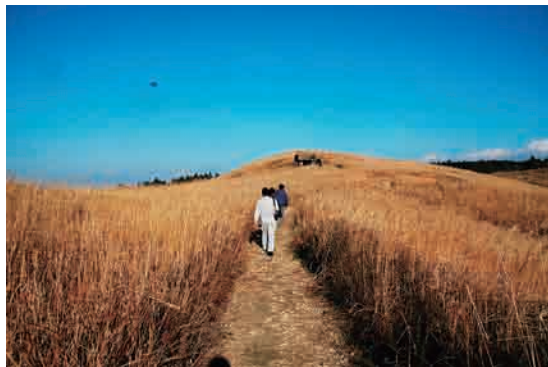
### 「鈴木家住宅」

鈴木家住宅は有田川町（旧金屋町）中峯の山中に南面して建つ江戸時代の農家です。高野領石垣荘の一部であった当地で代々庄屋をつとめていた家柄であり、桁行六間、染間五間、入母屋造りの茅葺き屋根の母屋は、棟札より天明五年（一七七八）に建設されたことがわかる貴重な建物です。

鈴木家の最大の特徴は、住まいとして現役であることです。また、郵便配達人の休憩所や中継拠点としても利用され、大きな土間や明るい縁側、落ち着いたダイドコロには、毎日当たり前地域の人達が集います。

昭和五十七年には、重要文化財として解体修理を受け、その後も棟などの補修が施されてきましたが、屋根全体に痛みが目立ってきたために、茅葺き屋根の葺き替えと、土間や竈の補修を施すこととなりました。

茅葺きの材料は山に生えるススキです。昔は集落ごとに屋根材を集める



まっすぐなススキが生い茂る生石高原



茅葺き屋根葺き替え作業の様子



はさみで刈り込まれ美しく仕上がった姿

茅場を持つていたそうです。鈴木家は決して大規模な建物ではありませんが、それでも全てを葺き替えるには、六〇〇〇〜八〇〇〇㎡の茅場が必要です。有田川町にはまだ茅葺きの農家がたくさん残りますが、集落の共同作業で屋根を葺き替える習慣は途絶えてしまい、いずれも鉄板などで覆われ、茅場もなくなってしまいました。

今回は、使用される材料を地元で調達する本来のあり方を目指し、有田川町と紀美野町の協力を仰いだ結果、生石高原のススキを使用できることになりました。毎年人の手が入り、山焼きも行われている高原のススキは非常に素性が良く、屋根材としては最適の品質です。文化財に利用することは町としても初めての経験であり、今回は必要な数量の四割程度にとどまりましたが、茅葺きの文化財建物を数多く有する有田川町において生石高原が継続的に茅場として活用される機会となることを願います。

（多井忠嗣）

## 紀ノ川流域の古代寺院

富加見 泰彦

那賀郡（現紀の川市）に所在する奈良時代前期の北山廃寺の北側には、「カワラダニ」と呼ばれる字名が残されています。平成5年度からの3年間の調査では窯跡は発見されませんでした。昨年度の調査で瓦窯の一部が発見されました。今後の調査の進展によってその姿が明らかにされていくことでしょう。

さて、今回はこの造瓦について話をしたいと思います。我が国に、初めて瓦が伝えられたのは崇峻天皇元年（588年）のことで、百済から寺工、鑑盤博士、瓦博士、絵工が渡来し、蘇我氏の氏寺で法興寺（飛鳥寺）を造営したことに始まります。瓦の寿命は驚くほど長く、奈良・元興寺極楽坊の屋根にはこの飛鳥寺（588年建立）から運ばれた瓦が今も葺かれていることには驚きを禁じえません。

では、古代の瓦はどのように造ったのでしょうか。参考になるのが中国明代末（17世紀）に宋応星によって書かれた「天工開物」という産業技術書です。この技術書によって古代の造瓦技術を垣間見ることができます。

古代には桶巻造りといわれる方法で平瓦を造っています。桶巻造りというのは、桶状のものに粘土板を巻きつけて形を作り、形成後に桶を抜き取り、乾燥した後4枚にカットする4枚造りの方法を用いていました。瓦を4枚立てて並べると元の桶の大きさを復元することができます。

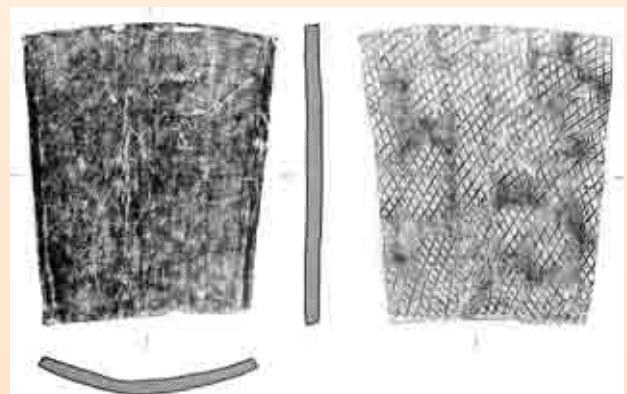
北山廃寺の平瓦を例にとって説明することにしてしましましょう。瓦を観察すると凸面には格子状のタタキ痕跡が見られます。これは桶に粘土板を巻き、格子目を刻んだ羽子板状の工具で表面を叩きしめた痕跡です。この作業を怠ると焼成時に粘土板に含まれた空気が膨張し瓦が破損します。

凹面には、布目の痕跡と幅2～3cmの筋状の痕跡があります。布目の痕跡は、桶に巻きつけた粘土を容易にはがれやすくするために桶に巻いた布の痕跡です。筋状の痕跡は模骨と呼ばれる桶の枠板の痕跡です。また、弧状に削ったような痕跡は、粘土板を弦で均一の厚さに仕上げる際にできた痕跡です。これ以外にも桶に布を止めた痕跡や粘土を巻きつけた際の合わせ目などが明瞭に残るものもあります。

『天工開物』にも描かれた瓦工人を思い浮かべながら、古人の知恵に思いを馳せるのもまた違った古代寺院の見学方法ではないでしょうか。次回は鴟尾の話をしたしたいと思います。（続く）



「天工開物」に描かれた造瓦



凹面

北山廃寺の平瓦

凸面



## 建築彫刻の話

⑥



金剛峯寺大門の支輪彫刻「鯉」



ベトナム寺院の彫刻「右の上半身が龍で左の下半身は魚」

今回の建築彫刻は「鯉」です。高野山金剛峯寺大門の二階の中央、支輪という材に彫刻されています。生臭物を最も避けるはずのお寺の、それも正門の真正面に鯉の彫刻があります。とても奇妙に感じます。ところが同じような鯉の彫刻は海南市下津町の長保寺大門の正面中央間の欄間にもあります。どうやら門と鯉の彫刻はセットの様に思えるのです。

そこで連想されるのは「登龍門」という言葉です。黄河上流にある龍門という急流をさかのぼった鯉は天に駆け上って龍になる、という伝説からでた言葉で、決して「門」のことではないのですが、立身出世の関門を象徴する言葉です。「この門に入る者は修行研鑽に努めて龍となれ」と言っているように思えます。

「鯉の滝登り」や端午の節句に我が子の成長を祈って「鯉のぼり」を掲げるのも、「登龍門」の伝説がその基のお話です。

ところで私はベトナムで古建築の調査をする機会を得ました。ベトナムの建物も豊かな彫刻で装飾されていました。彫刻の主題は殆どが龍、獅子、鳳凰です。そこで面白いものを見つけました。柱の左右に彫刻が施されているのですが、柱を中心に一方の上半身が龍、もう一方の下半身が魚です。鯉がまさに龍門を登り切ろうとしている姿に思え、感動ひとしおでした。

(鳴海 祥博)

## 発掘

掘屋余話

⑥

発掘事始め

発掘あるいは考古学というものが、我国ではいつたいつの頃からはじまったのでしょうか。

よく知られているのは、明治の初め、御雇外国人であるE・S・モースによる大森貝塚の発掘調査を嚆矢とするものでしょう。明治十年のことです。例のモースが横浜から新橋に行く途中、大森駅を過ぎてすぐの崖に貝殻が積み重なっているのを車窓から見つけ、後日、本格的な発掘調査をおこなったという話ですね。いま、その地は我国考古学の黎明を記念すべき場所として国指定史跡となっています。

しかし、一般にはあまり知られていませんが、それよりもずっと早く、江戸時代の前半に古墳の調査を行った人物がいます。当時、水戸藩の藩主であった水戸光圀が、家臣の佐々宗淳（もちろん助さんのモデルになった人物ですね）に命じて上侍塚古墳・下侍塚古墳という二基の前方後方墳を調査させています。

光圀の偉いところは、宝探しや盗掘ではなく、ちゃんと出土した遺物などの絵を書き、記録として残した上、元の場所に返しています。今日の記録保存の先駆けをなすものでしょう。さらに墳丘の上に松や桜などを植え、近在の人々の憩いの場として整備さえしています。これは今日の保存整備活用に通じるものと言えるでしょう。

「大日本史」の編纂事業だけでも頭が下がりますが、こうした事蹟を知るにつけ、風車の発掘屋としては、例の葵の印籠を差し出されなくても、思わずハハアと平伏してしまえますね。

(村田 弘)



## 催し物案内 和歌山県内の文化財関係イベント情報

(財)和歌山県文化財センター <http://www.wabunse.or.jp/>

○「歩いて知るきのくに歴史探訪～高野山再発見～」

日 時：平成21年10月24日(土)午後1時00分～午後4時30分

見学コース：金剛峯寺大門集合～壇上伽藍～金剛峯寺～金剛三昧院

○公開シンポジウム「紀ノ川流域の縄文文化」

日 時：平成21年11月7日(土)午後10時30分～午後4時30分

場 所：かつらぎ総合文化会館「あじさいホール」AVホール

県立紀伊風土記の丘 <http://www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp/>

○特別展「衣食住の原材料を里山にもとめて」

期 間：平成21年10月10日(土)～12月27日(日)

○スポット展「瓦の紋様-田中敬忠コレクションから-」

期 間：平成21年10月31日(土)～11月23日(祝・月)

和歌山県立博物館 <http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/>

○特別展「野呂介石-紀州の豊かな山水を描く-」

期 間：平成21年10月27日(火)～12月6日(日)

和歌山市立博物館 <http://www.wakayama-city-museum.com/>

○特別展「エコロジーの先駆者 南方熊楠の世界」

期 間：平成21年10月10日(土)～11月23日(月)

### 現場事務所一覧

旧中筋家住宅保存修理事務所

和歌山市禰宜 148

TEL:073(477)5969

金剛三昧院保存修理事務所

高野町高野山 425

TEL:0736(56)5578

北山廃寺・北山三嶋遺跡発掘調査事務所

TEL:0736(64)8052

秋月遺跡発掘調査事務所

TEL:073(472)0463

粉河寺遺跡発掘調査事務所

TEL:0736(74)3501

県指定史跡水軒堤防発掘調査事務所

TEL:090(3276)8475

埋蔵文化財課分室

和歌山市新在家 61 番地-4

TEL:073(472)3710

8	催し物案内
7	きのくに歴史小話 「建築彫刻の話」 「発掘屋余話」
6	文化財建造物課 短信 連載コラム「考古学の散歩道」 「紀ノ川流域の古代寺院」
5	文化財建造物課 短信 連載コラム「考古学の散歩道」 「紀ノ川流域の古代寺院」
2	特集 京奈和自動車道関連遺跡 「重行遺跡の調査」
1	表紙 重行遺跡

風車 48 (2009秋号)

平成21年9月24日発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

TEL:073-433-3843

FAX:073-425-4595

E-mail:maizou-1@wabunse.or.jp

URL <http://www.wabunse.or.jp>